

「産産学学」新たな業界コラボレーション

Academic-Industrial Collaboration Project 2019

13th FORM PRESENTATION

素材テーマ “天女の羽衣®”
ファッションテーマ “トランスペアレントな冬”

主 催：繊維ファッション産学協議会
特別協賛：一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構
協 力：天池合織株式会社

【事業概要】

次世代の人材育成を目的とし 2007 年にスタートした産学コラボレーション「FORM PRESENTATION」。今回は、北陸（石川県）の天池合織株式会社が開発したポリエステルオーガンジーを取り上げ、「天女の羽衣®」を素材テーマとし、超軽量・極薄の素材をベースにした表現の可能性と創造性を追求しました。ファッションテーマは、「トランスペアレントな冬」。学生たちの様々な発想とアイデアで、冬の季節感と素材の透明感を表現した秋冬コレクションを制作しました。

【13th FORM PRESENTATION】 ～作品が完成するまで～

6 月	「HAGOROMO 大学」開催 ポートフォリオで応募
7 月	審査会で 8 グループを選出
8 月	産地研修会
8 月～10 月	作品制作
11 月	作品の展示発表
12 月	成果報告会

■ 「HAGOROMO 大学」～開催～

素材知識を習得するための「HAGOROMO 大学」を、大阪&東京で開催しました。ファッションを学ぶ専門学校生&大学の学生や、アパレル・小売りのMDやデザイナー、生産管理者など合わせて 307 名が参加し、「天女の羽衣®」の基礎知識や素材の魅力を講義と映像で学びました。

大阪：6 月 10 日（月）13:30~16:45 会場：大織健保会館

東京：6 月 14 日（金）13:30~16:45 会場：長井記念ホール

（参加費 一般：2,000 円 学生：500 円）

テーマ： 「天女の羽衣®」

[講座] 「世界のマーケットを魅了する Amaike Super Organza」

《講師》天池合織株式会社

代表取締役社長 天池 源受 氏

マーケティング マネージャー 北出 義博 氏

参加者：大阪 61名

《参加校》

上田安子服飾専門学校、大阪モード学園、神戸ファッション専門学校、
香蘭ファッション専門学校、中部ファッション専門学校、名古屋モード学園
川島テキスタイルスクール



(大阪)



(東京)

参加者：東京 246名

《参加校》

エスモードジャパン、織田ファッション専門学校、
渋谷ファッション&アートカレッジ、杉野服飾大学、東京モード学園、
ドレスメーカー学院、武蔵野ファッションカレッジ、
目白ファッション&アートカレッジ、文化服装学院、横浜fカレッジ

講座では、天池合織株式会、天池社長が素材誕生のエピソード、原料の特長から仕上げ加工までのプロセス、ラグジュアリーブランドに採用された実例など、さまざまな基礎知識を習得するための実学を解説しました。マーケティング マネージャー 北出氏からは、素材の販売戦略についての解説と、ファッション業界を目指す若人へのメッセージが述べられました。また、画像と現物の生地に触れながら、今回のテーマ素材についての特徴が語られました。



(大阪)



(東京)

「13th FORM PRESENTATION」のための必修講義を受講した学生はこの後、このテーマ素材を活かした新規性のあるフォルムのアイデアを具現化するポートフォリオの提案に取り組みました。

■ 13th FORM PRESENTATION” の応募要項

□マテリアル・テーマ：「天女の羽衣®」

北陸の繊維産業は絹織物から始まり、合成繊維の登場と共に時代の変化に応じた発展を遂げてきました。燃糸等の糸加工から、繊維資材、染色整理等も含め、合成繊維産業の一大産地を形成しています。中でもナイロン、ポリエステルなどの合繊繊維織物の生産量において、北陸は全国シェアの約6割を占めています。また、石川県は古くから「繊維王国いしかわ」として全国にその名が広く知られており、合繊繊維織物では全国シェアの約34%（平成29年度統計）を占めています。また、その業界トップレベルの品質、技術力、開発力は国内のみならず世界中のマーケットを魅了し続けています。

石川県に1956年創業の天池合繊株式会社が開発したポリエステルオーガンジー「天女の羽衣®」は、髪の毛の1/5～1/6程の極細の極細糸を用い、高い技術力により織り上げた極薄オーガンジーです。日本の合繊産業の技術力から生まれたとも言える、この超軽量・極薄の素材をベースにして新鮮な表現の可能性と創造性を追求することを目的とし、素材テーマを「天女の羽衣」としました。究極の薄さ・軽さ・透明感等の素材特徴を最大限に活かしながら、時代感覚にマッチした新鮮なオーガンジーのスタイリングを追求しました。



□ファッションテーマ 「トランスペアレントな冬」

・冬の季節感と素材の透明感からインスパイアされるデザインコンセプト

テーマに沿った、冬に関連するシチュエーションと素材イメージから導いたストーリー及びコンセプトで独自の世界観を創出する。

・透け感を取り入れたカジュアルな秋冬コレクション

「天女の羽衣®」の透け感を取り入れたカジュアル感覚の秋冬のルックをデザイン。防寒アイテムに透け感を取り入れたり、ウォーム感のある異素材を組み合わせたり、素材をレイヤードしたり、オリジナリティのある素材構成とテクニックを駆使して、秋冬コレクションを展開する。

・素材の特徴を生かしたフォルムや後加工&ディテール

繊細な透け感や光沢が効果的なデザイン、軽さのあるボリューム感や、風にはらむようなフォルムの変化を強調したデザイン、プリーツ加工をはじめ素材の可塑性を生かした新しいテクスチャー、デジタルファブリケーションを取り入れた後加工の組み合わせ等々、「天女の羽衣®」ならではのテクニックを追求する。

・リアルクローズとしてのデザインとアイデア

着用時の美しさや着心地を考慮したデザイン、マルチWayな着こなし等付加価値のあるアイデアも。

■ 審査会で8グループを選出～ 審査会報告と講評

“FORM PRESENTATIN”の審査会が7月1日、JFW（日本ファッションウィーク推進機構）で行われました。今年のテーマ素材は天池合織が提供するオーガンジー「天女の羽衣®」。6月にオーガンジーの基礎知識を得るために開かれた「HAGOROMO 大学」を受講した学生のうち、15校49グループがポートフォリオを作成して応募しました。応募したポートフォリオは、どれもが個性的な作品。天池合織の天池社長をはじめ、同社のスタッフやデザイナー、業界関係者などが審査し、8グループの作品が選出されました。ファッションテーマは「トランスペアレントな冬」。世界でもっとも軽いテキスタイルといわれるオーガンジーを使用するとあって、若々しく斬新なアイデアが多数見られました。オーガンジーに中綿を詰めたキルティングのようなものから、さまざまな染色をほどこすなど加工も多彩。一次審査を通過した8グループは、このあと8月に石川県七尾市にある同社の工場を見学したのち、作品制作にのぞみました。その完成品は11月19～20日に開催される「JFW ジャパン・クリエーション」の会場で展示発表されました。

■ 13th FORM PRESENTATION <一次審査通過グループ>

学校名	グループ名 (英/和文)
エスモードジャパン東京校	DARK/ダーク
香蘭ファッションデザイン専門学校	2Y+N/にわいぷらすえぬ
渋谷ファッション&アート専門学校	Meat Pasta/ミート パスタ
中部ファッション専門学校	Wear Tradition
ドレスメーカー学院	Miss.T/ミスティー
名古屋モード学園	Vague/ヴェイグ
文化ファッション大学院大学	Super Tree/スーパーツリー
文化服装学院	Ing/イング

※50音順

□ 審査内容

(以下4項目の評価の合計点で上位を選出)

- ・ テキスタイルと作品の適合性
- ・ 作品表現の独創性
- ・ 作品のリピータ性
- ・ 作品の完成度

□原則・留意点

- ・ 特に冬を意識した秋冬コレクションであること。
- ・ 1点ものの作品ではなく、再現性のあるデザイン・製作工程。
- ・ リアルクローズであること、プレタポルテのコレクションであること。
- ・ 組み合わせる他の素材は各自で手配。但し「天女の羽衣®」を主役とし、全体のバランスを考慮。
- ・ 後加工等は素材の高級感や持ち味を損なわないよう特に注意。



■ 産地研修会 「天女の羽衣®」の生産現場を視察

ポートフォリオによる審査を通過した8グループの学生が8月2日、石川県七尾市を訪れ、天池合織株式会社を視察しました。この産地研修会は、学生が産地の加工場を訪問し、生産の現場に触れる体験をすることで、素材に関する見識を高めることが目的です。また現場で応募デザインを具現化するためのアドバイスを受けるなど、実物製作に向けて実学体験をするカリキュラムとなっています。

■スケジュール：

時間	内容/場所
9:30	JR 北陸新幹線 金沢駅 1F 新幹線改札口集合
9:40	バス移動 (20分)
10:00~11:10	金沢二十一世紀美術館(自由行動) https://www.kanazawa21.jp/
11:10~11:30	バス移動 (20分)
11:30~12:30	金沢駅移動(バス) 昼食休憩(自由行動) ※JR金沢駅 駅西駐車場集合
12:30~14:00	移動 (バス)
14:00~17:00	天池合織株式会社 ・工場見学 ・生地制作の現場、ショールーム ・質疑応答 作品制作に向けてのガイダンス ・使用素材の最終確認～制作指導 ・質疑応答
17:00~18:30	金沢駅へ移動
18:30	金沢駅 解散

■訪問先住所

金沢二十一世紀美術館

(石川県金沢市広坂1丁目2番1号) <https://www.kanazawa21.jp/>

天池合織株式会社

(石川県七尾市国下町ト部 59-1 〒926-0037) Tel: 0767-57-3633

<http://amaike.jp>

工場見学を終えた各グループは、天池社長とマネージャー北出氏から、コンセプトや作品と使用素材の適合性などについて、グループごとに最終的なアドバイスを受け、それぞれが事前発注した使用素材を受取りました。

この後、学生8グループは11月のJFWジャパン・クリエーションの展示発表に向けて、天女の羽衣の生地を使用した作品制作に取り組みました。



天池合織（株）



金沢二十一世紀美術館

■「JFW JAPAN CREATION 2020」(11月19日～20日)

会場：東京国際フォーラム ロビーギャラリー

～思い思いの成果に賞賛の声 JFW-JC で8グループが最終発表～

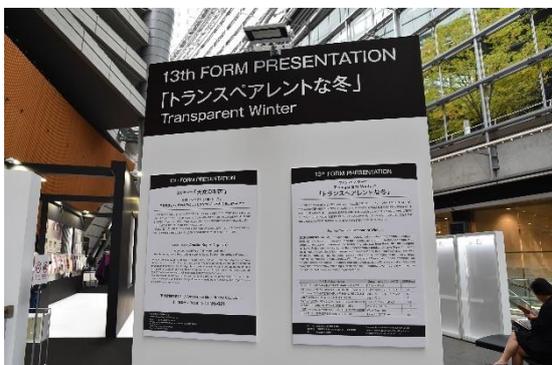
完成した作品は、JFW JAPAN CREATION 2020 ロビーギャラリーに、グループごとの8ブースを設け、展示発表を行いました。規定のスペースの中、学生たちはそれぞれ魅力ある演出でブースを設営しました。同展示会には、2日間で約17,220名が来場。会期中は自作品を熱心にプロモーションしました。学生にとっては、プロの業界人からの厳しくも暖かい意見を聞く貴重な機会となりました。

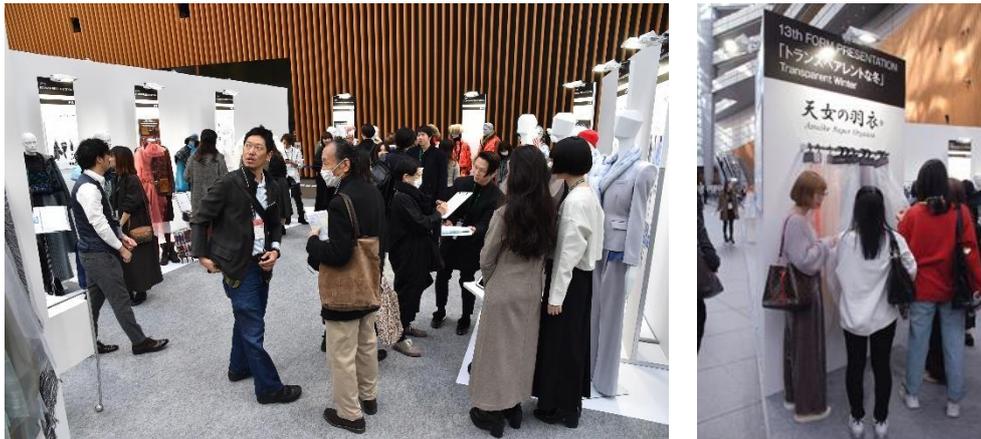
訪れたデザイナーやマーチャンダイザー、バイヤーなど業界関係者からは、各グループの作品とプレゼンテーションに高い評価が寄せられました。これからのファッション業界を担う彼らに、業界を盛り上げて頑張ってくださいとの激迎の声も上がりました。

前日の準備、展示装飾に取り組む学生(↓)



展示会開催(↓)





会場入口（↓）



□JFW JAPAN CREATION 2020」展示発表作品の審査

2日間の会期中には、デザイナーやバイヤーなど専門家による審査が行われました。①テキスタイルと作品の適合性、②作品表現の独創性、③作品のリピータ性、④作品の完成度などの項目による審査で、これによって最優秀賞と優秀賞を決定しました。

審査来場バイヤー42名（デザイナー、MD、小売バイヤー他）

■JFW JAPN CREATION 2020 展示発表

※小間番号順 (*) = グループリーダー

インタビューレポート ①会場展示についての感想 ②作品制作で難しかったと思われた点

<F1> 優秀賞

校名：エスモードジャパン東京校

グループ名：DARK / ダーク

Nguyen Deanne Diemxuan (*)

小柴 あみ

加藤 諒

制作アイテム

1: ジャケット+パンツ

2: コート+パンツ

3: ジャンプスーツ



① 企業に向けてプロ意識をもってプレゼンができ、とても良い経験になりました。いろいろな学生や先生方との交流、意見を聞くことができ勉強になりました。世界一薄い生地 of 扱いを習得出来てとても光栄でした。

② 羽衣が薄く、エアコンの風でも飛んでいってしまう為裁断するのが大変でした。また、羽衣の始末でボーンを添えながらの巻きロックの研究、ボリュームの出し方、生地 of 扱いは難しくとても勉強になりました。

(加藤 諒)

<F2>

校名：

文化ファッション大学院大学

グループ名：

Super Tree / スーパーツリー

ラロパイブン・ワクデト（*）

タン・ヒュマン

畠中 美沙子



① たくさんのファッション業界の人に見ていただく機会は、大きな収穫でした。また、適切なアドバイスも学校とは違った意味で貴重でした。

② キルトとニットが主力になりましたが、歩くたびにふわふわ揺れる感じを表現、さらに全面を昇華転写プリントにする、さらにニットとテグスの組み合わせなどに、グループ作成の必要性を感じました。グループでの協業をはじめ、個々のアイデアをまとめ、各人の強みをシェアする大切さを実感しました。

（ラロパイブン・ワクデト）

<F3>

校名：

渋谷ファッション&アート専門学校

グループ名：

Meat Pasta / ミート パスタ

高島 成（*）

杉本 美優

有野 彩香

築瀬 なつ美

金子 凛香

石倉 鈴可

藤波 重太郎



① 初めての経験で分からない事も沢山あったが、様々な方からのアドバイスや意見をたくさん貰えてとても良い経験になりました。

② 天女の羽衣は穴が開きやすく、ピンで留めることが出来なかったなので、生地を重ね縫いがとても大変でした。どの様に天女の羽衣の良さを出すかを考える時が一番苦労しましたが実際にやってみて、色々な表情が出て楽しかった。

（高島 成）

<F4> **最優秀賞**

校名：
文化服装学院

グループ名：
Ing / イング

尾久 樹（*）
須藤 舞愛
川部 竜雅
宮本 瑞歩
関根 知子

制作アイテム

- 1: コート+スカート+バッグ
- 2: ジャケット+スカート
+巻きスカート+リュック
- 3: ジャケット+パンツ+ポシェット



① JFWの展示会場で、すごく目につく場所で沢山の方がいらしてくれました。証明など明るく作品がとても見やすい環境でした。ありがとうございます。私たちの作品はボリューム感が大きかったので、スペースがもう少し広ければ細部を見せられ、電源の確保もありましたら、動画など準備してあったので存分に展示できたと思います。

② とても生地扱いがデリケートな為に扱いが高難度でした。アイロンの温度、摩擦に気をつけて制作しました。付属の補助で沢山の資材を用いて補強をさせていただきました。ダウンの羽が飛び出してくる箇所がとても高難度でした。（尾久樹）

<F5>

校名：

香蘭ファッションデザイン専門学校

グループ名：

2Y+N / にわいぷらすえぬ

川上 優希（*）

坂田 奈々美

平池 優貴



① 多くの方々が通りかかる場所だったので、沢山の方々に見てもらうことができ、良かったです。また隣でファッションショーがあった時もすぐに見に行くことが出来ました。スペースがもう少し離れていたら、プレゼンテーションももっとしやすくなると思いました。隣のグループを見ている方々と、私達のグループを見ている方々が重なって作品等が見え辛いと感じる時がありました。国際フォーラムであのように魅力的に展示をさせて頂き、心より感謝申し上げます。

② 縫製では天女の羽衣を一枚で丁寧に縫うのが難しかったです。ですが他の生地には挟んで縫うと縫いやすくなりました。その他のアイテムでも様々な生地を使用しており、その中では特に革が縫しろを薄くし分厚い革を縫い合わせたり、伸びないようにしたりするのが難しかったです。一番こだわったデジタルプリントでは、柄合わせが難しかったです。データ上で柄を合わせ、紙に出力したりして柄合わせをする作業が大変でした。

今回初めて天女の羽衣、デジタルプリント、シルクスクリーン、革を扱いました。沢山の技法や加工を入れたことにより、計画性や経費のことも勉強になりました。

（川上 優希）

<F6> **HAGOROMO 賞**

校名：

名古屋モード学園

グループ名：

Vague / ヴェイグ

渡辺 崇也（*）

金川 千夏

制作アイテム

アウターシャツ

スカート、パンツ 計9点



① この場合はこうデザインした方がより良くなる、こういう言葉を使った方がより面白いプレゼンになるなど、詳しくアドバイスを頂いたり、たくさんの方にお褒めいただいたりすることがきました。さまざまな方々に見てもらい、お褒めの言葉以外にも厳しい意見も頂き、大変勉強になりました。この貴重な経験を私たちの糧にし、頑張っていきたいと思います。

② どうしたら天女の羽衣の軽さや透明感、美しさを活かした洋服を作りができるのか、裁断や縫製、加工方法など、試行錯誤しとても困難を極めました。特に天女の羽衣に合皮を接着させることがとても難しかったです。熱接着をする際、天女の羽衣が溶けてしまったり、温度を下げると合皮が接着されないこともあったりで、適切な温度を出すために試行錯誤しました。（渡辺 崇也）

<F7>

校名：

中部ファッション専門学校

グループ名：

Wear Tradition

杉浦 里於（*）

松岡 遵

小野木 里予

中村 汐里



① まず、会場設営に手間取ってしまいました。会場前の待機でも、展示衣装のアイロンをかけつつ待機をしていました。展示作業では着せつけるのが大変でした。

② 天女の羽衣の裁断から加工にあたる全ての工程が扱いにくかったです。とくに端始末が難しく、熱処理の方法を幾つか試しましたがなかなかうまく始末ができず苦戦しました。

（杉浦 里於）

<F8>

校名：

ドレスメーカー学院

グループ名：

Miss.T / ミスティー

鈴木 花菜（*）

永田 奈奈実

平田 夕季

若田部 美穂



① 展示を業界の様々な方に見ただけで説明など緊張しましたが、色々ありがたいお言葉もいただけたので大変良い経験になりました。業界の方だけでなく他校の学生や海外の方とも作品展示を通してコミュニケーションを取る事ができ、刺激の多い2日間でした。搬入は学校でボードなど準備を整えておいたのでスムーズに行うことができました。

② 天女の羽衣の扱いが難しく、裁断も人が隣を歩くだけでずれてしまい大変でした。ミシンの糸を薄地に合うものを使ったため、つれも少なく仕上げることができました。また、私たちのもうひとつのテーマであるトランスフォームについて考えるのも大変でした。コートバッグの形にするためにフードの形やパーツの位置を研究し、タオルを何回もくりかえしました。羽衣を重ねることで起きるモアレも布の地の目をバイヤスにすることで解消しました。

（鈴木 花菜）

■JFW JAPAN CREATION 2020 13th FORM PRESENTATION 審査票から

用紙No.	業種	コメント	分類
42	その他	基本素材(天女のはごろも)がデリケートな素材なので組合せ素材が強すぎる傾向が強い印象。組合せ素材が勝ちすぎている作品が多いと思った。	アドバイス
1	官庁・団体	素晴らしい作品が多かったです。引き続き、頑張ってください。	好評
2	繊維製造・加工業	毎回楽しみにしています。今回もとても良かったです。学生のクリエイティブにおどろかされます。	好評
3	繊維製造・加工業	皆さん、お疲れ様でした！！各グループすばらしい作品ぞろいでした。皆さんの熱意が伝わってきてとても嬉しかったです。これからもがんばってください。	好評
5	その他(ファッションビジネスコンサル)	アイデア、素材を活かす工夫されてる。 アパレルの常識を超える新たなアイデアを期待します。	好評
7	バイヤー(企画会社)	与えられている生地が服地に不相当なところを工夫努力しましたね。	好評
9	その他	素材へのチャレンジ精神が感じられ良かった。	好評
10	マスコミ	F-2 ブースの「トランスペアレントな冬」にプラスしてトランスフォームを表現したのは素晴らしい。まさにテーマとデザインの？合性が取れている。	好評
11	その他	全体として難しいテーマに意欲的に取り組んでいる。参考になる加工もあった。	好評
13	バイヤー(問屋・商社)	すばらしい。	好評
14	バイヤー(問屋・商社)	どれもアイデアがすばらしく、良く考えられていて驚きました。今後のご活躍を楽しみにしております。	好評
15	その他	発想、努力、何よりパッションの強さを感じました。おつかれ様。	好評
17	その他	各校それぞれ、難しい素材を非常に上手く扱っていると思いました。	好評
18	その他	今年は、文化服装の作品において抜きんでていた。	好評
20	その他	よい作品になっています。	好評
21	バイヤー(デザイナー)	ポートフォリオで審査させていただきましたが、上記3組(F-5、F-8、F-7)が作品まで一貫して完成度、創造性が高かったと思います。	好評

24	バイヤー	ファブリックに大変独創性があり楽しいコレクションでした。すぐ着れるデザインもリアリティーがありました。頑張ってください！	好評
27	バイヤー(アパレル)	日常着として着用できそう。品がよい。	好評
29	バイヤー(アパレル)	イングのアイデアと独創性は素晴らしいと思います。これかも自由に発創して下さい。	好評
31	バイヤー(アパレル)	自由な発想で楽しい商品が出来ている。難しい素材をうまく作っている。	好評
32	繊維製造・加工業	扱いが難しい素材を苦労しながら形にした熱意が感じられました。	好評
33	繊維製造・加工業	どれも各々今迄にない使い方をして頂き、未来的なデザインで感動しました。	好評
34	学校関係	全てのグループ難しい素材をよく制作された事は、感心です。	好評
37	その他(製造工場)	同じ素材でも作品が全て違うのでおもしろい！！若い人の感性の豊かさを感じる、素晴らしい企画です。	好評
38	バイヤー(アパレル)	とても魅力的なものばかりでした。	好評
40	その他(ブランド経営者)	素材の研究がよくされているグループが多く、とても良かったです。	好評
12	バイヤー(問屋・商社)	プレゼンも楽しくしていただきました。これからも頑張ってください。	好評
25	マスコミ、学校関係	素材とカクウした事がよく分かる作品群でした。ミクロの視点をもっとときはなされる事が未来につながると思います。視点をますます広げて下さい♥ガンバレ！	激励
39	バイヤー(アパレル)	がんばってね。	激励

■ 総評

第13回となる、“FORM PRESENTATION”は、「天女の羽衣」をテーマに、その製造メーカー、天池合織株式会社とのコラボレーションを行いました。超極細の糸で作られたポリエステルオーガージーをコア素材として取り上げ、製作に取り組みました。究極の薄さ・軽さ・透明感などの素材特徴を最大限に活かしながら、時代感覚にマッチした新鮮なオーガージーのスタイリングを追求しました。ファッションテーマは、“トランスペアレントな冬”。学生たちの柔軟な発想とアイデアで、冬の季節感と素材の透明感を表現した秋冬コレクションです。完成した作品はそれぞれの個性とアイデア溢れる仕上がりでした。

今回も多数の学校が参加し、ポートフォリオもレベルの高い大変すばらしい応募が多数ありました。具現化した作品も高い評価を受け、展示発表の会場では、審査員から多数の激励コメントやアドバイスが寄せられました。アイデアの独創性や表現は、学生らしい自由な発想との良い評価を得ました。展示発表での積極的なプレゼンテーションも印象的でした。審査、講評コメントをいただいた方々は、この事業に参加した学生たちの今後の活躍に大きな期待を寄せています。

■ 植松章子（チーフコーディネーターの声）

様々な業界でイノベーションの創出が問われる中、繊維業界においても産学連携のさらなる進化が求められていると言えます。“FORM PRESENTATION”は、学生が日本の繊維企業から直接素材を学び、デザイン企画、制作、展示発表までの一貫した工程を体験する大変意義のあるプログラムです。また、繊維企業と業界の次世代を担う学生達がテーマを共有し、繊維業界全体へ広く発信することが出来るプラットフォームの一つでもあります。

今回の素材テーマの“天女の羽衣®”は、その繊細さと美しさにより世界中のメゾンから支持されている唯一無二のオーガンジーです。今回初めて“天女の羽衣®”を知った学生達も、一目でその美しさに魅了され、さらに産地研修を経て素材背景を知れば知る程“天女の羽衣®”への研究心がさらに深まったようです。

今回掲げたテーマ「トランスペアレントな冬」の狙いは、季節をAWに限定することにより、既存概念に捉われない若いアイデアで新たな“天女の羽衣®”の可能性を探求するというものでした。そして、結果、プロの一般常識では無謀とすら思える斬新なアイデアや、思わずディテールまで詳しく見入ってしまう興味深いテクニクも見られました。

そんな若いエネルギーと、“天女の羽衣®”の繊細さのシナジー効果が吸引力となり、既存のイメージとは異なる“天女の羽衣®”の表情をより多くの来場者と共有できたことは、参加した学生達はもちろん、今後の繊維ファッション業界においても大変有意義であったと感じています。

実は、天女の羽衣®はプロにとっても高度な縫製技術を求められる極めて難易度の高い素材です。当初、このような素材に慣れてない学生が果たしてうまく制作できるのか若干不安がありました。案の定、制作途中の報告を見ると、裁断から始まり縫製はもちろん各工程で失敗と試行錯誤を繰り返し、これまでに経験したことのない力戦奮闘だったようです。

しかし、高いモチベーションとチームワークで完成させた実績と、その過程での数々の苦労のエピソードも必ず将来の糧となるに違いありません。

今回の経験を通じ、「素材を知る」ことの意義に気付き、よりグローバルな視点で知識を深め、将来の創作に生かして欲しいと願っています。

■ 「報告会」 成果報告と優秀者表彰

JFW-JC2020 で展示発表された“FORM PRESENTATION”に参加した学生グループの報告会が、12月12日に、東京・渋谷の文化ファッションインキュベーションで開かれました。8グループの学生、教員、協力企業、協賛団体関係者などの49名が参加しました。

報告会では、コンセプトの立案から作品制作にいたるプロセスを報告。どのグループも極薄で繊細な素材の扱いに大変苦労した分、大きな成果が得られたようです。「難しい生地 of 扱いに取り組んだことが勉強になった」「JFW-JC 参加は貴重な体験であった。」「グループでの協業がとてもよい体験になった」とのコメントが相次ぎました。



報告会の後、JFW-JC の会場に訪れた業界関係者による審査の発表が行われ、最優秀賞の文化服装学院 Ing/イング(尾久 樹さん代表)、優秀賞のエスマードジャポン東京校 DARK/ダーク (Nguyen Deanne Diemxuanさん代表) には賞状とトロフィー、HAGOROMO 賞の名古屋モード学園 Vague/ヴェイグ (渡辺 崇也さん代表) にはトロフィーが贈られました。また、それぞれの賞に副賞として「天女の羽衣®」で作られた記念品が贈られました。



表彰



報告会終了後に交流会を開催しました。



■完成した製品について

制作した作品は制作者の所有となりますが、展示会終了後 1 年間は、販売促進やプロモーションのため、協力企業からの貸出の希望などが出た場合はご協力をお願いしています。

また、学校内イベントなどで再度展示発表する場合は、レポートの報告などをお願いしています。

